神戸新聞 2016年06月05日 日曜日 面名 朝一社 １４ 27ページ

晩夏のヒグラシ 間もなく登場!?

兵庫の愛好家ら70人 ３年間調査

セミ初鳴き 年々早く

温暖化影響 生息域も変化

セミの初鳴きと鳴き納めはいつ？ 兵庫県内の昆虫愛好団体などのメンバーらが、そんな調査を毎年続けている。地元の気候や環境の変化を知る手掛かりにしようと、気象台の調査よりきめ細かく、既に晩夏のころに鳴く印象が強いヒグラシが6月下旬から鳴き始めるとの結果も。メンバーらは「地域ごとに10年単位で記録し続け、自然界の変動を捉えることに役立てたい」と話す。（中西大二）

調査は、NPO法人「こどもとむしの会」（事務局・神戸市灘区）や「兵庫昆虫同好会」などのメンバーが中心となり、２０１３年に開始。現在は口コミなどで一般にも広がり、中学生以上の約70人が参加する。

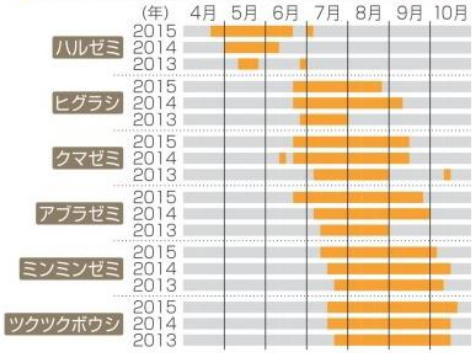
情報を管理しているのは、こどもとむしの会の近藤伸一理事(71)＝朝来市。参加者からメールでセミの種類、日時、場所などの報告を受ける。今年も現在、県内各地の松林でジージーと鳴く「ハルゼミ」の情報が次々と届いている。

一部のセミについては気象庁が全国の気象台付近で観測しているが、メンバーらの調査は昨年だけで延べ約１００人から、県内を中心に12種計４５０件の報告があった。「小さな記録も集まれば大きい。さらに継続的に調査すれば貴重な記録になる」と近藤理事。

３年間の調査では、ヒグラシの初鳴きが早期化しているほか、秋に鳴くと思われていたツクツクボウシは地球温暖化の影響で羽化が早まったとの指摘もあり、7月中旬から鳴き始める▽かつて県南部の沿岸で多く見られたクマゼミが温暖化のためか神戸市の都心部などで急増し、生息域を県北部まで拡大させた▽盛夏のころに鳴くとされるミンミンゼミが、10月中旬ごろまで鳴き続ける―などが確認された。

セミに詳しい宮武頼夫・元大阪市立自然史博物館長(78)は「セミが指標となり、他の虫の出現期の変化も分かるかもしれない。将来的には生態などの科学的な解明に貢献できるはずだ」と市民レベルの取り組みに注目する。

■主なセミの初鳴きから鳴き納めまでの期間



クマゼミ

ハルゼミ

ミンミンゼミ

ヒグラシ

（いずれも提供写真）

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

① この記事の主見出しを書きましょう。

（　　）

② この調査では、最も早く鳴くのは、何というセミでしょう？また、最も遅くまで鳴くのは、何でしょう。

（　　）（　　）

③ かつて県南部の沿岸で多く見られたが、生育域を県北部まで拡大させたのは、何ですか？

（　　）

④ 記事を読んで、どんなことを思いましたか、感想を書きましょう。

（　　）

名前 【　　】

NIEワークシート／小学高学年～中学校／理科、総合、朝NIE